

地域若者サポートステーション（以下「サポステ」という）事業は、ニート等の若者の就労支援を目的として、平成18年度より行われているが、着実に実績を挙げるようになるとともに、中退者支援や、貧困の防止等、寄せられる期待も大きくなってきている。こうした動きを踏まえ、今後のサポステの在り方について検討するため、職業能力開発局長が検討会を招集。5回の議論を経て、平成25年2月、報告書を取りまとめた。

## 具体的な方向性

- おおむね15～39歳のニート等の若者のほか、中退者・在学者のうち支援が必要な者に対しても、学校と連携して支援を行うことが必要。
- 専門的な相談、コミュニケーション訓練、職場体験等のほか、必要に応じ、合宿を含む集中的訓練も必要。
- 生活困窮者に対する生活支援策と連携し、支援を行っていくことが必要（窓口の併設等も有効）。
- 就職等進路決定者数のほか、変化の度合い等も、評価対象とすることが適当。
- サポステの拠点拡充、体制整備を図るとともに、これを恒久的な取組にすることが必要。
- 支援の質の担保のため、研修等により、専門人材の資質向上等を図ることが必要。
- 学校との連携強化に当たっては、サポステと学校、ハローワークで中退者情報を共有する仕組みを作ることや、学校からの求めに応じてサポステ職員が相談支援を行うこと等が必要。大学とも連携していくことが必要。
- ハローワークとの連携を徹底し、就労に向けた支援をより一層推進する。
- 周知・情報発信に力を入れ、認知度の向上を図る。

